

アイ・エヌ・エー 正会員 森 明美  
 埼玉大学工学部 正会員 窪田陽一  
 埼玉大学工学部 正会員 深堀清隆

### 1. 背景と目的

人々の余暇時間が増えたことで河川のレクリエーションとしての利用も増加し、行政でも舟運の活性化への取り組みが始まっている。船の利用を促進するにはまず船着場などの整備を考えられるが、このような拠点的で限定的な整備のみならず、特に機動性のあるプレジャーボートの利用を考える上では、船着場等に依存せず護岸そのもののアクセシビリティを高めることでより広範囲に利用を促進することができると思われる。そこで本研究では様々な護岸を対象に陸から水面へのアクセシビリティの評価を試みた。

### 2. 河川水面で利用できる乗り物

河川水面で利用できる乗り物（16種類）の大きさ、重量等を把握し、それらの利用時の特徴について次のように3項目に対して3パターンに分類する。

A：運搬 ①ワゴン、軽トラックで可能 ②陸上保管 ③水面係留のみ

B：揚降 ①人の手で可能 ②クレーンやフォークリフトで可能 ③水面係留のみ

C：乗り降り ①乗り物に乗ったまま水面に入る ②水面に浮いた状態で入る ③①、②両方可能

乗り物の利用に必要な川幅と水深を、川幅については手こぎボートは岸に縦づけする場合を考慮して全長の2倍、モーターボートは船舶の回転を考慮して全長の3倍、水深については各船の喫水の1割り増しを必要な条件とする。

### 3. 乗り物の利用に対する護岸の評価

よく施工されている主な護岸工法35種類を選出し、歩行者が通行できるものであるかどうかを判定する。次に、代表的な河川の断面図として8タイプ（図1）をあげる。8つの断面に対して、上記で歩行者が通行できると判定した護岸工法の中から、法覆・法尻それぞれに適用できると思われる護岸を抽出する。また各断面において運搬、揚降、乗り降りの3つの条件でそれぞれの船が利用できるかを判定し、利用できるものに対して、護岸を通過し水際での船の乗り降りができるかどうかを図面を用いて判定し表示した。（表1）

### 4. 考察

上記の8つの表をより簡潔にするために、船は4種類に分け、護岸は水際部分のみに着目して、断面ごとに各護岸において、勾配、船が接岸できる距離、護岸を歩行者が通れるかを考慮してどの

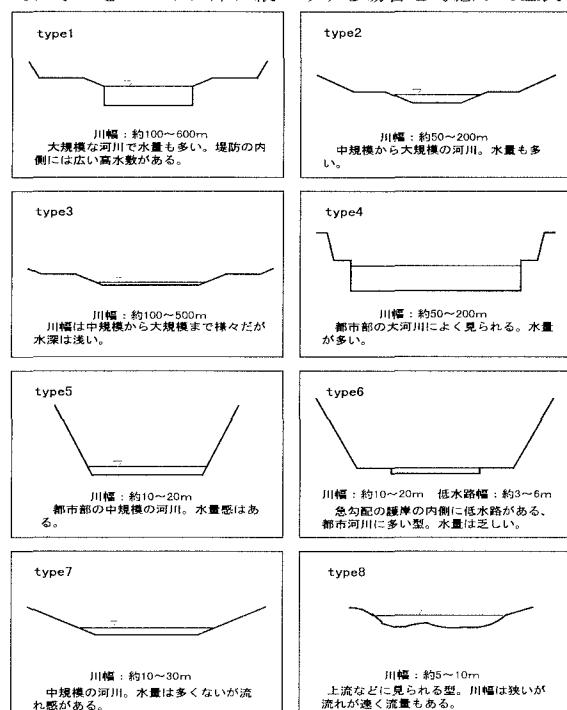


図1 代表的な河川断面

Keywords : 河川護岸、舟運

連絡先 〒112-8668 東京都文京区関口 1-44-10 TEL03-5261-5751

〒338-8750 埼玉県浦和市下大久保 255 TEL048-858-9549 FAX048-858-7374

種類の船が利用できるかを表示した。断面6,7については護岸内部に進入できないので表からは削除した。その改善案としては急勾配の護岸でも、護岸の内側に堀込み型の階段や、断面6はテラスも同時に設ければ手こぎボートの利用は可能である。type1やtype4のような急勾配である護岸の河川は適用できる工法も限られてくるので整備の自由度が低く、結果的に直接護岸で乗り降りできる船が少なくなることが多い。type2やtype7のような緩勾配のケースでは適用できる護岸工法の選択範囲が広く、船が利用しやすい整備を行うことも可能である。周辺を含む河川の環境については考慮していないので、形についてだけ言えば現状では、モーターボート類が直接接岸できる例は少ない。手こぎボートは親水型の整備などが進んでいることによって利用できる河川が比較的多いと思われるが、最近よく見られる多自然型の整備は人が水際まで近づけないことが多いので、自然にあふれ、かつ水面も利用できる護岸の整備が望まれる。

表1 type2における護岸の適合性

法 覆	巨石 護岸	空 石 張り 護岸	半 空 玉 石 張り 護岸	木 杭 階 段 護 岸	ス テ ッ プ ブ ロ ッ ク 護 岸	階 段 式 コ ン クリ ー ト 護 岸	連 接 ブ ロ ッ ク 護 岸	隠 し 護 岸 による 河 岸 演 出	柳 枝 工 と 石 の 組 み 合 わ せ	張 り 芝 護 岸	プロ ック 張 り 護 岸			
法 尻	法 覆 のみ	捨 て 石 護 岸	矢 板 直 立 護 岸	鋼 矢 板 護 岸	木 杭 護 岸	木 桿 による 石 結 護 岸	捨 て 石 護 岸	法 覆 のみ	柳 枝 工 と 石 の 組 み 合 わ せ	木 杭 護 岸	木 杭 護 岸	柳 枝 工 と 石 の 組 み 合 わ せ	捨 て 石 護 岸	法 覆 のみ
カヤック	○	x1 安定が悪い		○					x1 安定が悪い					○
ガナディアン	○	○ △1 落差なし	○	○				△1 落差なし	○ △1 落差なし	○	○			○
ファルトボート	○	x1 安定が悪い		○					x1 安定が悪い					○
ガナディアン	○	○ △1 落差なし	○	○				△1 落差なし	○ △1 落差なし	○	○			○
インフレータブルボート	○	○ △1 落差なし	○	○				△1 落差なし	○ △1 落差なし	○	○			○
ローボート	○	○ △1 落差なし	○	○				△1 落差なし	○ △1 落差なし	○	○			○
競漕用	○	○ △1 落差なし	○	○				△1 落差なし	○ △1 落差なし	○	○			○
ランナハウツ								x 緩勾配のため水際に近づけない						
フイッシング								x 緩勾配のため水際に近づけない						
スポーツフィッシング								x 緩勾配のため水際に近づけない						
グルーザー								x 緩勾配のため水際に近づけない						
デインギー								○						
セーリングクルーザー								x 緩勾配のため水際に近づけない						
ジェットスキー								△ 落差がなく水面係留であれば利用可能						
ワインドサーフィン								○						
水上バス								x 緩勾配のため水際に近づけない						

△1:水面と陸の間に落差があれば利用可能 ×1:安定が悪いのでスロープのような所でないと乗り込めない

△:落差がなく水面係留であれば利用可能

表2 それぞれの護岸で利用できる船	巨石 護 岸	空 石 張 り 護 岸	空 石 積 み 護 岸	半 空 空 石 張 り 護 岸	雜 割 石 積 み 護 岸	矢 板 直 立 護 岸	鋼 矢 板 護 岸	木 杭 階 段 護 岸	ス テ ッ プ B 護 岸	階 段 式 C 護 岸	木 工 沈 床	片 法 挖 工	丸 太 格 子 護 岸	乱 机 打 設	木 杭 護 岸	布 団 籠 階 段 護 岸	蛇 籠 工 護 岸	多 段 式 箱 籠 護 岸	箱 マ ツ ト 護 岸	隠 し 護 岸 による 河 岸 演 出	植 生 ・ 自 然 型 護 岸	柳 枝 工 と 石 の 組 み 合 わ せ	捨 て 石 護 岸	草 止 め 護 岸	敷 き 粗 粒 砂 護 岸	魚 巣 B 護 岸	緑 化 B 護 岸	C B 積 み 護 岸	法 桿 B 護 岸	B 張 り 護 岸	C 三 面 張 り 護 岸
河川断面 タイプ	巨石 護 岸	空 石 張 り 護 岸	空 石 積 み 護 岸	半 空 空 石 張 り 護 岸	雜 割 石 積 み 護 岸	矢 板 直 立 護 岸	鋼 矢 板 護 岸	木 杭 階 段 護 岸	ス テ ッ プ B 護 岸	階 段 式 C 護 岸	木 工 沈 床	片 法 挖 工	丸 太 格 子 護 岸	乱 机 打 設	木 杭 護 岸	布 団 籠 階 段 護 岸	蛇 籠 工 護 岸	多 段 式 箱 籠 護 岸	箱 マ ツ ト 護 岸	隠 し 護 岸 による 河 岸 演 出	植 生 ・ 自 然 型 護 岸	柳 枝 工 と 石 の 組 み 合 わ せ	捨 て 石 護 岸	草 止 め 護 岸	敷 き 粗 粒 砂 護 岸	魚 巣 B 護 岸	緑 化 B 護 岸	C B 積 み 護 岸	法 桿 B 護 岸	B 張 り 護 岸	C 三 面 張 り 護 岸
type1	T W	—	—	M Y J	T W J	T W J	T W J	—	—	—	—	—	—	—	T W	—	x	—	T W	—	—	—	—	—	—	—	—	T W Y J	—	T W Y J	
type2	T W	T W	—	T W	—	T W J	T W J	T W J	T W J	x	—	x	T W J	T W J	x	—	T W	T W	T W	T W	T W	T W	T W	T W	T W	x	—	T W	—	T W	
type3	T W	T W	—	T W	—	T W	W	T W	W	—	—	x	—	x	—	T W	T W	x	—	T W	T W	T W	T W	T W	x	—	—	T W	—	T W	
type4	—	—	M Y J	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	M Y J	—	M Y J		
type7	T W	T W	—	T W	—	T W J	—	T W J	T W J	x	—	x	T W J	x	—	T W	T W	x	T W J	T W J	T W	T W	T W	x	—	T W	T W	T W			
type8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	x	—	—	x	—	—	T T	T T	x	—	T T	T T	—	—	—	—	—	—	—	—	—

\*C:コンクリート、B:ブロック、T:手こぎボート、M:モーターボート、Y:ヨット、W:ウインドサーフィン、J:ジェットスキーチ X:適用できるが進入しにくい —:この断面では適用できない

参考文献 1) マリンスポーツガイド'98、舵社 2) 染谷昭夫、藤森泰明、森繁泉著:マリーナの計画、鹿島出版会 2) 合田良實、佐藤昭二著:新訂版 海岸・港湾、靖国社刊 3) 財団法人リバーフロント整備センター:多自然型川づくりの取り組みとポイント、山海堂 4) 東京都河川景観ガイドライン(案):東京都建設局河川部